

2025年度 JIU 数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
自己点検・評価

数理・データサイエンス・AI教育推進タスクフォース

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; ・リテラシーレベル履修者:1,273名(2024:1,059名) 修得者:1,097名(2024:904名)</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt; ・応用基礎レベル履修者:692名(2024:798名) *データサイエンスⅠを除く、いずれか1科目を2025年度に履修している延べ人数 修得者:7名(2024:0名)</p> <p>リテラシーレベルの科目「データサイエンスⅠ」の履修者は昨年の1.2倍となり、86.2%(2024:82.4%)が修得(単位認定)している。履修者増の要因は、2年生で履修する学生が一定数いたことが要因の一つである。なお、修得状況は昨年とほぼ変わらない状況である。応用基礎レベルは、履修者は減となったものの、修得者は、昨年度0名であったが、数理・データサイエンス・AIの魅力や社会的需要の発信に努め、7名となった。次年度以降も、応用基礎レベルの重要性をリアルに伝え、継続的に修得者を輩出していきたい。</p>
学修成果	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; リテラシーレベルの科目「データサイエンスⅠ」の成績評価を分析した結果、SAB:959、C:138、F:176であり、シラバスに記載している達成目標を概ね達成している。</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt; 応用基礎レベルの「データサイエンスⅠ」を除く科目を分析した結果、SAB:440、C:56、F:196であり、難易度が増す分、リテラシーレベルと比較して成績にばらつきが見られた。特に、C・F評価が全体の36.4%(2024:37.5%)を占めており、学修目標の完全な達成には課題が残る結果となった。これは、履修生の基礎的なスキルに差があること、ならびにデータ解析の実践的な課題に取り組む段階での理解不足が要因と考えられ、授業内容の見直しを図っていく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; 授業アンケート「この授業の説明は分かりやすく、理解できましたか。」の項目において、学生の理解度を分析した結果、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答率が85.2%(2024:82.1%)であった。</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt;*データサイエンスⅠを除く 授業アンケート「この授業の説明は分かりやすく、理解できましたか。」の項目において、学生の理解度を分析した結果、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答率が84.1%(2024:80.7%)であり、理解度が高いことが示された。しかしながら、成績評価との間に乖離が見られることから、授業内容の理解と実際の技能定着との間に差があるため、サポート体制の強化を図り、理解度と技能習得の両面を高めていく。</p>
学生アンケート等を通じた、授業で、学生の理解を深めるための工夫の状況	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; 授業アンケート「この授業で、担当教員はあなたの理解を深めるための工夫(レビューシート、小テスト、小レポート、グループワーク、予復習用の動画配信、クリッカー、具体的な事前・事後学習の指示など)をしましたか。」の項目において、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答率が88.7%(2024:85.9%)であった。</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt; 授業アンケート「この授業で、担当教員はあなたの理解を深めるための工夫(レビューシート、小テスト、小レポート、グループワーク、予復習用の動画配信、クリッカー、具体的な前・事後学習の指示など)をしましたか。」の項目において、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答率が87.4%(2024:85.2%)であった。</p> <p>いずれのレベルも高評価を得ている。2026年度の授業に関し、更に理解を深める工夫を行っていく。</p>
学生アンケート等を通じた、学生の気づき(コメント)に関する改善	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; 昨年度、教材がMacでの操作説明で構成されていたため、Windowsでの説明を希望する意見が確認されたため、これを踏まえ、本年度の教材ではWindows環境にも対応した説明を追加・修正したが、本年度も同様の意見が確認された。そのため、さらに、Windows環境への説明を加えるなどの改善を図っていく。</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt; リテラシーレベルに比べ難易度が上がるため、内容が難しかった、課題の提出期限が早すぎるとの意見が見受けられた。これを受け、次年度は授業内容の改善、提出期限の見直しを図り、理解度を高めていく。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>&lt;リテラシーレベル&gt; リテラシーレベル科目「データサイエンスⅠ」については、全学必修としており、履修者数、履修率は年々高まっている。一方、未修得による進級要件で引っかかるケースも見受けられ、再履修におけるアフターケアの必要性も感じられた。</p> <p>&lt;応用基礎レベル&gt; 応用基礎レベルの科目については、2024年度より13.3%履修者減となっている。2025年度は履修者減となったが、2026年度より全学部共通基盤科目として位置付けたことから、履修増を見込んでいる。</p>
社会における実課題や実データを活用する実践的な教育の状況	<p>&lt;応用基礎レベル&gt; 「データサイエンスⅡ」において、データサイエンスで主流のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行っている。 さらに、学生自身が自らデータを収集し、データ分析の設計から解析、そして考察までの一連のデータ分析を行う実践的なプロジェクトも行い、学生が今後自らデータサイエンスの知見を用いて実課題に取り組むことができる教育を行っている。</p>